－62dBm＋受信空中線の絶対利得（dBi）

イ　試験機器の最大等価等方輻射電力が200mW以上の場合

－64dBm＋受信空中線の絶対利得（dBi）

⑷　スペクトル分析器は、次のように設定する。

ア　レーダー信号発生器の設定が⑵ア及びイの場合

中心周波数	試験機器の送信（受信）周波数の中心周波数
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	１MHz程度
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
Ｙ軸スケール	10dB／Div
掃引時間	15ｓ程度
掃引モード	連続掃引
検波モード	ポジティブピーク

イ　レーダー信号発生器の設定が⑵ウ及びエの場合

中心周波数	試験機器の送信（受信）周波数の中心周波数
掃引周波数幅	占有周波数帯幅の許容値以上
分解能帯域幅	１MHz程度
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
Ｙ軸スケール	10dB／Div
掃引時間	10ms程度
掃引モード	連続掃引
検波モード	ポジティブピーク

３　試験機器の状態

⑴　試験周波数及び利用可能チャネル確認状態又は運用中チャネル監視状態に設定して送信する。

⑵　試験周波数は、試験機器が発射可能な周波数から無作為に選択する。

⑶　試験機器の通信負荷条件は、誤り訂正及び制御信号を含めない信号伝送速度で、無線設備の最大伝送信号速度の17％となるように設定する。

４　測定操作手順

擬似レーダーパルスとして、２⑵に示す各試験信号を用いて、次のとおり動的周波数選択機能の動作を確認する。

⑴　利用可能チャネル確認

ア　標準信号発生器の出力を非送信の状態にする。

イ　試験機器を初期化して、利用可能チャネル確認状態とし、電波が発射されていないことをスペクトル分析器又は外部試験装置で確認する。

ウ　利用可能チャネル確認時間のうち、無作為に選択された時間において、標準信号発生器の出力を送信の状態として、２⑶の規定入力レベルの擬似レーダーパルスを試験機器に加える。

エ　擬似レーダーパルスが試験機器に入力されたときに電波の発射が停止することをスペクトル分析器を用いて確認する。

オ　アからエまでを４回繰り返して、擬似レーダーパルス検出の有無を記録する。

⑵　運用中チャネル監視

ア　標準信号発生器の出力を非送信の状態にする。

イ　試験機器を初期化して、運用中チャネル監視状態とし、試験周波数で送信する。

ウ　３⑶に規定する通信負荷条件で外部試験装置との通信を確立する。

エ　標準信号発生器の出力を送信の状態にして、規定入力レベルの擬似レーダーパルスを試験機器に加える。

オ　擬似レーダーパルスが試験機器に入力されたときの擬似レーダーパルスの検出の有無をスペクトル分析器を用いて確認する。

カ　２⑵ア及びイに規定する試験信号について、次の(ｱ)から(ｳ)までにより種別ごとの検出回数を求める。

(ｱ)　アからオまでを20回繰り返して、擬似レーダーパルス検出の有無を記録する。

(ｲ)　(ｱ)において、擬似レーダーパルスの検出回数が全ての試験信号で18回以上の場合又は検出回数に10回以下のものが含まれる場合は、測定を終了する。その他の場合は、(ｳ)を行う。

(ｳ)　アからオまでを20回繰り返して、擬似レーダーパルス検出の有無を記録し、(ｱ)の値を合算した擬似レーダーパルスの検出回数の合計を求める。

キ　２⑵ウに規定する試験信号について、次の(ｱ)から(ｳ)までにより検出回数を求める。

(ｱ)　アからオまでを20回繰り返して、擬似レーダーパルス検出の有無を記録する。

(ｲ)　擬似レーダーパルスの検出回数が18回以上のときは、測定を終了する。

(ｳ)　(ｱ)において、擬似レーダーパルスの検出回数が15回以上17回以下の場合は、(ｴ)を行う。

(ｴ)　アからオまでを20回繰り返して、擬似レーダーパルス検出の有無を記録し、(ｱ)の値を合算した擬似レーダーパルスの検出回数の合計を求める。

ク　２⑵エに規定する試験信号について、次の(ｱ)から(ｳ)までにより検出回数を求める。

(ｱ)　アからオまでを20回繰り返して、擬似レーダーパルス検出の有無を記録する。

(ｲ)　擬似レーダーパルスの検出回数が16回以上のときは、測定を終了する。

(ｳ)　(ｱ)において、擬似レーダーパルス検出回数が13回以上15回以下の場合は、(ｴ)を行う。

(ｴ)　アからオまでを20回繰り返して、擬似レーダーパルス検出の有無を記録し、(ｱ)の値を合算した擬似レーダーパルスの検出回数の合計を求める。

５　試験結果の記載方法

⑴　利用可能チャネル確認

ア　４⑴オにおいて、試験機器が擬似レーダーパルスを４回検出した場合は「良」、３回以下の場合は「否」で記載する。

イ　「利用可能チャネル確認によりレーダー電波が検出された場合の送信停止時間」については、工事設計書で確認する。

⑵　運用中チャネル監視

ア　２⑵ア及びイに規定する試験信号の場合

(ｱ)　４⑵カ(ｱ)において、試験機器の擬似レーダーパルスの検出回数が全ての試験信号で18回以上の場合は「良」、検出回数に10回以下のものが含まれる場合は「否」で記載する。

(ｲ)　４⑵カ(ｳ)において、試験機器の擬似レーダーパルスの検出回数の合算値が全ての試験信号で32回以上の場合は「良」、検出回数に23回以下のものが含まれる場合は「否」で記載する。その他の場合は、(ｳ)に基づき記載する。

(ｳ)　試験信号の種別ごとに、各試験信号の擬似レーダーパルスの検出確率を求め、検出確率の平均が80％以上の場合は「良」、80％未満の場合は「否」で記載する。

(ｴ)　(ｱ)から(ｳ)までの「良」又は「否」に併せて、２⑵ア及びイに規定する試験信号ごとに検出回数と試験回数を記載する。

イ　２⑵ウに規定する試験信号の場合

(ｱ)　４⑵ク(ｱ)において、試験機器の擬似レーダーパルスの検出回数が18回以上の場合は「良